

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第100回廃止措置分科会（R3SC） 議事録

1. 日時：2024年9月26日（木） 16:45-17:45
2. 場所：Web会議（Webex）
3. 出席者：岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、青井、石原、工藤、黒川、小山、佐藤、白畑（関西電力、鈴木委員代理出席）、高橋、田村、鳥居、仲田、西村、平井、見上、米山
委任状提出：田中、中村
4. 配布資料
 - R3SC-100-0 議事次第
 - R3SC-100-1 人事案件
 - R3SC-100-2 第99回廃止措置分科会議事録（案）
 - R3SC-100-3-1 基盤応用・廃炉技術専門部会 耐震安全技術レポートの審議状況
 - R3SC-100-3-2 基盤応用・廃炉技術専門部会コメントへの対応表
 - R3SC-100-3-3-1 耐震安全技術レポート新旧比較表（付録G抜粋）
 - R3SC-100-3-3-2 耐震安全技術レポート新旧比較表（付録E抜粋）
 - R3SC-100-3-3-3 耐震安全技術レポート新旧比較表（付録F抜粋）
 - R3SC-100-3-3-4 耐震安全技術レポート新旧比較表（付録H抜粋）
 - R3SC-100-3-4 耐震安全技術レポート（案）完本版
 - R3SC-100-3-5 基盤応用・廃炉技術専門部会への最終報告説明資料案
5. 議事
 - (1) 一般事項
 - ① 18名/20名の出席により分科会成立を確認した。また、うち2名は委任状を提出している。
 - ② 人事案件 [R3SC-100-1]
なし
 - ③ 次回分科会は、11月12日（火）9:00～11:00（オンライン開催）
 - (2) 前回議事録確認 [R3SC-100-2]
特にコメントなし
 - (3) 耐震安全技術レポート[R3SC-100-3シリーズ]
 - 担当員から、R3SC-100-3-1, -2により基盤応用・廃炉技術専門部会の審議状況及び意見募集結果のコメント対応内容の説明があった。
主な質疑
 - ①目黒副主査から、線量換算係数について標準人ではない場合ずれてくるのかと質問があり、過去に、基準日本人を考えて内部被ばく線量換算係数が整備されたこともあったが、ICRPの線量換算係数が改訂されており、ICRPの値を使用

している。パラメータの使用に当たっては差があることを踏まえておく必要がある。現在、ICRP pub. 89をベースに日本人モデルによる線量換算係数の整備がJAEAで検討されているという情報もあり、新情報が出た段階で反映もあり得ると考えていると担当の委員から説明がなされた。

②目黒副主査から、コメント対応について少し過剰な対応になっているように思うと伝えられたことに対し、運転段階の支持構造物としての機能要求に代わり汚染拡大防止機能の要求が必要になることを踏まえた耐震クラスの判断が必要であることと、解体撤去の作業を踏まえると建屋内の放射性物質量の総和で行うこと説明した記載としたことを担当の委員から説明がなされた。

③その他、出席者から意見無く、対応としては了承された。

- 担当の委員から、R3SC-100-3-3-1～-4により変更箇所の説明及び変更箇所を反映した完本版（R3SC-100-3-4）を作成したことについて説明があった。
- 担当の委員から、R3SC-100-3-5によって専門部会への説明資料について説明があった。
- 委員から引用文献の転載許諾の手続きの状況について確認の質問がなされ、転載許諾の手続きを準備中であると担当の委員から説明がなされた。
- 岡本主査からR3SC-100-3-5の「6. 今後の予定」に関して、専門部会での投票等について質問があり、11月の専門部会で最終報告の承認（制定）を得、12月の標準委員会で発行の承認を得る手順であることを、学会事務局に確認している。標準委員会の決議及び公衆審査を経ないことが「標準」に関する手続きとの差異であると担当の委員から説明がなされた。
- 今回報告の内容と誤字脱字チェックを含めて専門部会への最終報告を行うことについて投票の結果、委員の賛成多数で可決された。

(4) その他

- 岡本主査から耐震標準の改定作業にいつ着手するのかと質問があり、最終報告を行った11月以降と考えていると担当の委員から回答がなされた。
- 目黒副主査から、その他改訂予定として3つの指針について、11月の専門部会の議事に上がっており、つの指針について分科会で審議が必要であると伝えられた。このことについて、岡本主査が指針の担当の委員に確認することとなった。
- 岡本主査から、耐震標準の改定に関して、どのような体制で行うのか今後調整することとしたいと伝えられた

以上